

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適用 措置	感染症(PID)	出典	概要
												ウエストナイル ウイルス	The New York Times 2007年7月 26日	米国におけるウエストナイルウイルス症例数は1年前の約4倍であり、大流行がおこる可能性があると政府研究者が報告している。昨年は米国で4,289症例が報告され、この中には1,495例の脳症が含まれ、177人が死亡した。今年からはこれまで122症例が報告され、カリフォルニア州と南北ダコタ州で最も多いが、昨年の同時期は33例のみであった。今年は既に脳症が42例および死亡が3例ある。
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Biologicals 2007; doi:10.1016/j.biologi cals.2007.04.005	異なるポアサイズのウイルス除去膜を使用し、異なる処理を行ったスクレーパーブリーオン蛋白 (PrP ^{Sc}) の除去能力を評価した。超音波処理により粒子径分布を至適化するように調製した263K MFをスパイク物質として使用したときは、75nmのろ液中にPrP ^{Sc} が検出された。15nmのろ過のみが全ての条件でウエストタンプロット法の検出限界以下までPrP ^{Sc} が除去されることが示された。しかし、1条件下の15nmろ液のバイオアッセイの結果では、感染性PrP ^{Sc} が確認された。
												E型肝炎	第55回日本ウイルス ス学会学術集会 2P207	HEVに感染したブタ糞より精製した4種のHEVは、ウイルス除去膜PLANOVA15Nおよび20Nで全て検出限界以下にまで除去された。液状加熱実験では、PBS組成では加熱開始後短時間で全て検出限界以下となったが、アルブミン存在下では4株とも加熱開始後5時間目でも検出された。HEVは熱に弱いと考えられていたが、条件によって不活化効果が異なることから、血液製剤や加工食品において慎重に不活化効果を検討しなければならない。
												A型肝炎	第55回日本ウイルス ス学会学術集会 2P213	遺伝子型の異なる複数のHAV細胞馴化株における加熱や加圧による不活化効果を検討した。25%アルブミン存在下60℃10時間加熱処理または室温下300～420MPaの1分間加圧3サイクルに対し、HAV細胞馴化株間で不活化効果に差が異なれた。Validation試験に使用する株として、加熱や加圧で不活化されにくく細胞で良く増殖するKRM238が適切と考えられた。血液製剤の製造工程に新規不活化法を導入する場合にはValidation試験に使用する株を適切に選定する必要がある。